

胃の『ABC検診』を受けましたか？ ～福島町の胃がん検診～

胃がんの発生にはピロリ菌感染が深くかかわっていて、世界保健機関（WHO）は1994年にピロリ菌を発がん物質と認定しました。

東京のNPO法人胃がん予知・診断・治療研究機構は、ピロリ菌感染と胃粘膜の萎縮の程度を組み合わせた『ABC検診』という胃がんリスク層別化検診を発表しています。

A～Dの4群に分類し、A群はピロリ菌感染がなく、胃粘膜の萎縮もなく、胃がんリスクがほとんどない超低危険群のことです。

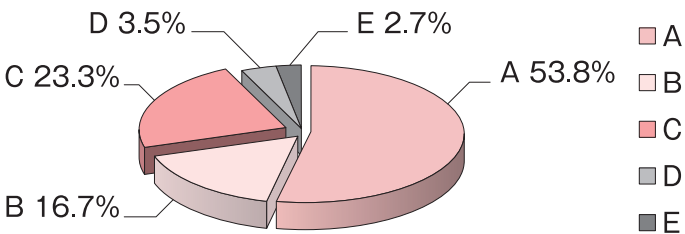
福島町は平成24年から、『ABC検診』を実施していて、私は12年間の検診結果をNPO法人の機関紙に最近発表しました。

全期間の検診受診者は30歳以上で構成される人口の約61%にあたる1,817人になりました。

A群が1番多く53.8%、次にC群・B群と多くいました。

福島町の12年間のABC検診受診者数(1,817人)

～30歳以上で構成される町人口の61%に相当～



■ABC検診で発見された12年間の福島町の胃がんの件数

年度 群	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	発見数 (%)
A													0 (0)
B		1	1				1		1				4 (12.5)
C	3	1					2	3	3		3		15 (46.9)
D			1	2	1	1						1	6 (18.8)
E					2		1			1	2	1	7 (21.8)
合計	3	2	2	2	3	1	4	3	4	1	5	2	32 (100)

12年間で32人の胃がん患者がA群以外の群から発見されました。

C群が15人（46.9%）と1番多く、E・D・Bの順に少ないです。『ABC検診』による胃がん発見率はレントゲン検診よりも何十倍も高く、32人の胃がん患者のうち治る早期胃がんは27人（84.3%）と多くいました。

福島町の検診結果でもA群からの胃がん患者はいないことがわかり、町民の約半数が胃がんにかかる危険性が無いと言えます。

E群（除菌後の群）からも多くの胃がん発生があったので、A群以外のBからE群と分類された人は、「胃がん検診」として必ず定期的に胃カメラ検査を受ける必要があります。

まだ、胃の『ABC検診』を受けていない町民は、早めにピロリ菌に感染していないかをチェックしましょう。

（文責：小笠原内科消化器科クリニック 小笠原 実）

お問い合わせ先：福島町健康づくり推進協議会（福祉課内） ☎47-4682